

行 革

第二の夕張市にならないために…

議会行財政改革推進特別委員会を設置

議会行財政改革推進特別委員会



根本謙一委員

杉本文江委員、鈴木繁明委員、横山知世志委員、元木博人委員、歌川幸喜委員
善澄 満委員、高畑四郎副委員長、石橋史敏委員長、武藤康弘委員

議会では、12月定例会において、「議会行財政改革推進特別委員会」を設置しました。委員は10名。

会津美里町の行政は、振興計画や行革大綱に基づいて行われています。行政は、町と議会の両者の協働により進められるべきものと考え、そこで議会としても調査研究を行い、その結果をもとに、財政状況を見据えて、議会としての提言を町に提出していきたいと考えている。

設置後、委員会としての取り組みとして、まず19年度予算編成に向けて、19年度重点事業について調査することにしました。グループごとの調査研究課題は、小学校関連事業（総務文教グループで調査）・特別養護老人ホーム建設事業（厚生グループ）・横町門前町整備事業、ミュージアム建設事業（産業建設グループ）・情報連絡設備整備事業（行革委員全員）。それぞれに町より聞き取りを行い、各グループで話し合い、その調査結果を委員会へ提出しました。行革委員会では、各グループの調査結果をもとに、審議し、委員会としての結論を出し、さらにその結論を議員全員協議会の中で再度審議し、議会の総意を得て、議会から町へ提言書を提出しました（P7参照）。

この議会からの提言書により、19年度予算編成に多大なる影響を与えることは間違いないと思います。合併により、町が早急に取組まなければならない事業はたくさんあります。財政が厳しいこの時代、急いでばかりではなく、時間をかけて見直してみることも大切なのではないのでしょうか？

自分の町は、自分で守る

石橋史敏行財政改革推進特別委員長に聞く

—この委員会のねらい・目的は？

町（執行体制）のひとり歩きを抑制することと、議会のチェック機能を増し、健全な行財政にすることです。

—町に提言した内容には、過去に議決し、推進してきた事業の凍結もあるが。

今までの行政は、事業がスタートしたら、時代が変革しようが、財政が悪化しようが、後を振り返らずにやってきました。しかし、今の時代、それでいいんでしょうか？一度立ち止まって、「本当にこれでいいのか」と検証する必要があると思います。第2の夕張市にならないためにも。

—今後の展開は、どう考えているのか。

財政、税制、公の施設の維持管理費、財産の把握等の調査をし、ある程度まとめて、中間報告書を作り、町に提言していきます。又、住民の中に入っていき、



議会から町へ行財政改革推進特別委員会の提言書を提出(平成19年1月23日)

説明会もやりたいと考えています。

—最後に委員長から読者へメッセージを。

地方自治とは、簡潔に言えば「自分の町は自分で守る」すなわち、「自分たちで負担の責任を負う」ということです。「サービスは高く、負担は低く」などという魔法の杖はありません。介護保険がよい例です。

話は変わりますが、最近の夕張の問題、前福島県知事の事件は、私から言えば、「もの言わぬ議会」の責任が大きいと思います。そんな中で、行革特別委員会を立ち上げ、現状の問題点を浮き彫りにし、町民全員で考え、あるべき方向性を探っていきたいと思っています。

最後に、最大の行政改革は、「住民が税金の使い方、使われ方に関心を持つ」ことである。」と私は考えます。

《 提 言 》

重点事業名	事業の内容	提言内容
● 情報連絡設備整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新鶴地区の防災行政無線の老朽化 ・高田、本郷地区の防災行政システム未整備 ・情報通信地域格差の是正対策 ・行政事務の効率化、高度化 <p>このような各種課題の一体的な対応を図る。</p>	<p>当該事業については、議会としての理解がまだ不十分のため、検討を要する。</p>
● 本郷第一小学校校舎耐震診断事業及び同校下水道加入工事	<p>耐震診断とは、計画的な事業であり、本郷第一小学校については、体育館は旧町時代に診断済。</p> <p>下水道加入工事も計画的な事業である。本郷第一小学校の場合、本郷第二小学校との統合を踏まえ、19年度に加入工事を行う計画である。</p>	<p>本郷第一小学校と本郷第二小学校の統合については、町村合併時には無かった問題である。本郷第二小学校地域の保護者は「対等の立場での新設校での統合を望んでいる」との話もある。</p> <p>平成19年度は事業への二重投資を避けるためにも、統合に係る既設校、新設校の問題もふまえ、事業を再度検討するため、これらの事業・工事を1年間凍結すべきと考える。</p>
● 特別養護老人ホーム建設事業	<p>待機者が400名を超える中、特別養護老人ホームが新鶴地区には存在しないことから、旧村時代から建設が望まれていた。そのようなことから、19年度の重点事業として位置付けられていた。</p> <p>この事業は、建設地は町より無償により貸付。建設・運営等については事業者を公募し、行うこととなる。</p> <p>建設により、経済効果はあるものの、保険料増への影響があると思われる。</p>	<p>保険料負担の試算が微増のため、待機者ニーズもふまえ、事業の推進を求める。</p>
● 横町門前町整備事業	<p>伊佐須美神社より、高田地区中心部を門前町通りとして整備し、昔の賑わいを取り戻すため、1年を通し誘客できる道づくりをし、商店街への回遊性を高め、消費活動の活性化を図る。</p> <p>また、新鶴地区・本郷地区のアクセス道路として、地域振興に寄与する路線として早期に整備を図る。</p>	<p>平成19年度事業計画の中で、道路改良、街灯施設、無散水消雪施設の整備については、推進すべきものと思われる。それ以外の事業については、投資効果並びに観光客のニーズにマッチするか大変疑問の点が多く、再度検討するため、事業そのものを1年間凍結すべきと考える。</p>
● ミュージアム建設事業	<p>会津本郷焼や関連する資料等は、民間の美術館・インフォメーションセンター2階・旧資料館に展示されている。しかし、それぞれに機能が明確でなく、分散配置されているため、観光交流ネットワークを整備する上で、新たな施設（ミュージアム）の建設が望まれる。</p>	<p>事業による経済効果や美術館の管理運営の内容が不透明な中で、平成19年度の美術館の用地取得については、大変疑問な点が多く、再度検討・審議するため、1年間凍結すべきと考える。</p>